

伊賀市社協だより



令和7年4月1日発行

No.229
4月号

地域×学校がつながる
地域福祉教育の
新しいカタチ
(1/28 福祉教育推進協議会研修会)





地域×学校が つながる 地域福祉教育の 新しいカタチ

地域福祉を進めるには、私たち一人ひとりが福祉について考え、意識を高めていくことが大切です。また、誰もが共に生きやすい社会をつくるためには、学びや気づきの機会が欠かせません。社協では、地域福祉教育を推進する中で、「学校とのつながり方が分からない」といった地域のみなさんからの声や、「地域の方々にもっと学校と関わっていたらいい、地域全体で子どもたちを育てていくことが理想」といった教員の方々のお声をいただいています。

そこで、学校と地域のより良い連携を促進し、地域全体で子どもたちの学びを支える環境づくりを目指し、1月28日に「福祉教育推進協議会研修会」においてワークショップを開催し、小・中学校教員や住民自治協議会、民生委員児童委員などそれぞれの立場から意見交換を行いました。



ワークショップで出たご意見（一部抜粋）

地域・団体が学校に求めていること(例)

- 地域活動・伝承行事に子どもたちに参加・協力してほしい
- 学校行事への参加要請（イベント・運動会等）
- 第1次産業（林業・農業等）の体験学習を取り入れてほしい
- 地域と積極的に関わってほしい
- 地域にもっと遊びに来てほしい
- 防災拠点としての役割

行事参加

学び
体験
交流

拠点
活用

学校が地域・団体とできること(例)

- 団体活動（環境・農業）、地域行事（祭り、防災、伝統行事）に参加する
- 学校行事（運動会など）に参加していただく
- 出会い学習で地域の方とつながる
- 地域の人から話を聴く、聞き取り学習
- 米づくりやイモづくりなどの交流



学校が地域・団体に求めていること(例)

- 学校行事に参加してほしい
- 地域や団体にいる特技のある人の情報がほしい
- 教員が教えられない専門分野を教えてください
- 福祉体験・福祉施設の方とふれあいたい
- 環境整備（特にグラウンド）に協力してほしい

行事参加

学び
体験
交流

ボランティア

地域・団体が学校とできること(例)

- 地域行事の周知や参加依頼（祭り、運動会など）
- 地域の伝統を子どもたちに伝える
- 地域の施設に出向き、仕事を教えてもらう
- 仕事の魅力を伝えること
- 民生委員児童委員活動の紹介
- 奉仕活動・学校清掃活動（草刈り）

教員の方々の感想より

学校からも情報発信し、地域との繋がりをより強固にしていきたい

地域の方がこんなにも学校に協力したいと思ってくださっているとは知らなかった

地域の方と情報共有でき、もっと地域の方々にもっと助けてもらっていいんだと、有難い気持ちになった

地域・団体の方々の感想より

学校関係者も地域との関わりを求めているが、方法や窓口が分からないことも多いと改めて気づけた

地域側の想いと学校側の想いはよく似ていることが分かった。なぜ協働で様々な取り組みができていないのかが今後の課題

学校と地域との関係を色々と話し合えて今後の参考になった

地域福祉コーディネーターより

ワークショップを通じて、学校と地域が同じようなニーズを持っていることが分かりましたが、「誰に相談したらよいか分からない」という理由でつながりが切れている課題も浮き彫りになりました。伊賀市社協の地域福祉コーディネーターは学校と地域をつなぐ役割も担っています。お悩みがあればお近くの社協窓口までご連絡ください。



地域福祉コーディネーター
えとうかの
江藤 菜乃

災害時 外国人にも伝わりやすい 『やさしい日本語講座』

大事なことが伝わらない!? どうしよう……!!

防災や災害の情報は日本語が多く、日本語がわからない外国人には、避難場所や生活に必要な情報が届かないことがあり、災害にあってもすぐに日常生活にもどれないことがあります。

伊賀市災害ボランティアセンターでは、2月16日、必要な情報を整理し、わかりやすいことばに置き換えて相手に伝える「やさしい日本語講座」を開催しました。当日の内容の一部をご紹介します。



講義

やさしい日本語ってなあに？

講師 / NPO 法人伊賀の伝丸



POINT

やさしい日本語の作成ポイント【文章編】

- 文を短くする。1つの文に1つの情報だけを入れる。
- 最後まではっきり話す。ですます調で話す。
- 区切って話す。書くときは、分かち書き※にする。
※語や文節の間に1字分空けて書く表記法
- ゆっくり、はっきり。「あの～、ええっと」などを入れない。
- 状況に合わせて内容は必要なものだけにしぼる

POINT

やさしい日本語の作成ポイント【単語編】

- 漢語（熟語）ではなく、和語を使う
例) 記入する ▶ 書く
- 敬語はさける
例) おっしゃる ▶ 言います
- カタカナ語・和製英語は気をつける
例) デマ ▶ うそ話
- 忠実に訳そうと思わずに具体的に伝える
例) 本人確認書類 ▶ 在留カードや自動車の運転免許証
- 擬音や擬態語などはなるべく使わない
例) ピカピカにする ▶ (光るくらい) きれいにする
- 知っておいた方がよい言葉はそのまま使う
例) 避難所 ▶ 地震や火事で 家にいられないとき 安全にいられる場所
- 方言は標準語で
例) ぬくたい ▶ あたたかい、あったかい

やさしい日本語にチャレンジ!
(答えは下)

- ①氏名 ②欠席 ③翌日 ④勤務 ⑤危険 ⑥粗大ごみ
⑦負傷者 ⑧高齢者 ⑨テキパキ ⑩いらわんといて

やさしい日本語に100%正解はなく、相手や状況に合わせて工夫する「やさしい心」が大切です

実践

やってみよう! 避難所の受付や情報発信 外国人ゲストを相手に やさしい日本語でロールプレイ

受講者の声から

避難所受付役
伝わっていないときにとてもあせりました。

避難所受付役
必死に聞いていることが伝わりすぎて、不安を与えてしまった。避難所に来た人を安心させられなかった。

避難所に来た外国人役
日本のアニメでお母さんが子どもに伝えるような、短くて伝わる言葉のアレンジが良いと思った。

避難所に来た外国人役
やさしい日本語の説明と、ジェスチャーでわかりやすかった。

外国人防災リーダーが避難してきた外国人役として協力しました



日常会話で誰にでも伝わる「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションを増やしていきましょう!

※この事業は、伊賀市災害ボランティアセンターが、伊賀市「令和6年度地域活動支援事業補助金」の補助を受けて実施しました。

① 伊賀市社協だよ あいしあおう ② 伊賀市災害ボランティアセンター ③ 伊賀市 ④ 令和6年度地域活動支援事業補助金 ⑤ 伊賀市社協だよ あいしあおう ⑥ 伊賀市災害ボランティアセンター ⑦ 伊賀市 ⑧ 伊賀市社協だよ あいしあおう ⑨ 伊賀市災害ボランティアセンター ⑩ 伊賀市

協力

開催
報告

(わがまちの)

子どもの貧困 対策フォーラム 2025



日本では、子どもの貧困や「貧困の連鎖」が深刻な社会問題となっています。

2月24日に、全国の子どもの貧困対策や先進事例を学び、どのような環境に生まれ育っても、全ての子どもが食事や学習の機会、生活必需品、愛情など「育つために当たり前に必要な環境」が得られる社会の実現を目指して、フォーラムを開催し、240名の参加がありました。

◆主催／(福)伊賀市社会福祉協議会 ◆後援／子ども家庭庁・三重県・三重県社会福祉協議会・伊賀市・伊賀市教育委員会・伊賀市民生委員児童委員連合会・伊賀市社会福祉法人連絡会 ◆協賛企業／18社

フォーラムの基調報告では、こども家庭庁支援局家庭福祉課主査鈴木太地氏から「こどもの貧困対策」についてご報告いただきました。シンポジウムでは、鎌倉千秋氏(NHK放送文化研究所主任研究員)にコーディネーターを務めていただき、子ども支援活動に取り組んでいる3名のシンポジストをお迎えしました。

まず、渡辺由美子氏(NPO法人キッズドア理事長)から、「日本の子どもの貧困とキッズドアの活動」として、子どもの貧困を福祉ではなく投資として捉え、学習支援や体験活動、キャリア教育を通じて教育格差を解消する取り組みが紹介されました。

次に、古賀和美氏(三芳町社会福祉協議会)より、「ALL-

三芳・子どもの未来は変えられるー生活課題を抱える子育て家庭と子どもの支援を考えるー幼児期から学

童期にかけた切れ目のない支援をめざしてー」と題し、学習支援教室や朝食支援のほか、学用品購入や修学旅行費用支援などを子どもを応援する基金を創設して行う取り組みが報告され、乳幼児期から社会人になるまでの寄り添い支援が強調されました。



さらに、林陽一郎氏(NPO法人皆繋代表理事)より、「自尊心・非認知能力を育む、子ども中心設計の支援アプローチ」として、非認知能力(自己肯定感やコミュニケーション力)の重要性に焦点を当て、子どもたちの自信や社会性を育む支援活動について紹介がありました。

最後に、伊賀市社協から「これからの子どもの貧困対策」について、



くらし支援課長の寺田浩和と主任相談員の福谷希から、現在の活動状況と今後の対策を報告しました。

今後も地域の皆様のご協力のもと、子どもたちの未来を守るため、子どもの貧困対策を地域に根ざして推進してまいります。

参加者アンケートより

- 高齢者の介護が世帯内だけで対応できなくなり、介護保険ができたように、子育ても家庭だけではできなくなってきたことへの気づきが大きな収穫でした。
- 鎌倉千秋さんの「近所のおばちゃんに“アナウンサーになってみたら”と声をかけられたのがきっかけでアナウンサーを目指した」という言葉が印象的でした。大人の声かけひとつで、子どもたちの未来の可能性が大きく広がることも、潰してしまうこともあると再認識し、地域社会の問題により一層関心を持っていこうと思いました。
- 声をあげられない子どもたちの現状や、それを取り巻く環境がよくわかりました。取り組む課題が山ほどあり、誰ひとり取り残されない社会を皆さんと一緒につくる努力をしていきたいと強く思いました。

特技を活かして、あなたのまちを元気に！

アトラクションボランティア

伊賀市社協では、個人及び団体のボランティア登録、ボランティア依頼に対するコーディネートや、ボランティア活動の希望や依頼する方の相談に応じています。

地域のふれあい・いきいきサロンやイベントなどの集いの場や福祉施設などへ出張して、パフォーマンスや演出、体験の機会などを提供する、「アトラクションボランティア」として、約70の個人及び団体が活躍しています。

伊賀市社協ホームページに、登録団体一覧と活動内容・謝礼等を掲載していますので、ご覧ください。



アトラクションボランティア活動内容(例)

音楽関係

ハンドベル
オカリナ
マンドリン
バンド演奏
ドラム
ギター弾き語り
ハーモニカ
ピアノ
キーボード
鍵盤ハーモニカ
アコーディオン
サクソ
クラリネット
ゆみ琴
中国楽器二胡
南京玉すだれ
和太鼓演奏
芝居

ボーカルレッスン

音楽療法
音楽と映像のコラボレーション
歌(ポップス・ジャズ・演歌・民謡・歌謡曲・カラオケ)

体操

健康教室・体操
ヨーガセラピー

踊り・ダンス

舞踊
創作ダンス
フォークダンス
フラダンス
カントリーダンス

子育て

親子ふれあい体操
手作りおもちゃ
ベビーダンス
歌・手・音遊び
知育学習
絵本読み聞かせ
ペープサート
パネルシアター
お芝居

学習

防災教室
消費者被害防止啓発
歴史講演
「終活」セミナー
エンディングノート勉強会
家族葬勉強会

体験

園芸教室
制作体験
アレンジメントフラワー体験
ハーバリウム体験会
ポートレイト撮影
折り紙
和菓子づくり
合気道
パズル

その他

司会
落語風漫談
マジック・落語
バルーンアート
出前読み聞かせ
紙芝居
介護美容

アトラクションボランティア依頼の流れ

アトラクション
ボランティア
依頼先を決める
団体一覧・依頼書



ボランティアの
連絡先が
わかる

ボランティアの
連絡先が
わからない

依頼者から、直接電話等で
ボランティア団体に依頼

依頼書を
社協に提出

社協からボランティア
団体に連絡

ボランティアから依頼者に、
電話連絡で調整

- * 伊賀市社協は依頼者からの受付窓口となります。日程や謝礼等の詳細は、依頼者とボランティア団体で調整をお願いします。
- * ボランティアと依頼者の間で決定したこと(日程の変更など)について、社協への報告は不要です。

【伊賀市社協 各地域センター 連絡先】

上野地域センター ☎0595-21-1112・FAX0595-21-8123
いがまち地域センター ☎0595-45-1012・FAX0595-45-1050
島ヶ原地域センター ☎0595-59-3132・FAX0595-59-3145

阿山地域センター ☎0595-43-1854・FAX0595-43-1577
大山田地域センター ☎0595-47-0780・FAX0595-46-1165
青山地域センター ☎0595-52-2999・FAX0595-52-3555

令和
7年度**教室型 認知症・介護予防教室**

高齢者が住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう、体力の維持・向上や認知症・閉じこもり予防を目的として、認知症・介護予防教室を開催します。みなさまのご参加をお待ちしております。

■参加費/無料 ■申込方法/会場管轄の地域センターにお申込みください。

※会場により定員数が異なります。詳細は各地域センターにお問い合わせください。

■音楽療法教室 講師：伊賀音楽療法研究会

季節の歌唱や懐かしの歌謡曲を歌ったり、音楽に合わせて楽器を演奏し、身体を動かします。健康（健口）の維持に役立ち、口腔ケア・介護予防・認知症予防につながります。

	月/時間	場所	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
上野	第2木曜日 10:00～11:00	小田地区 市民センター	10	予定 8	予定 12	予定 10	予定 ※第3 木曜 21	予定 11	予定 9	予定 13	予定 11	予定 8	予定 12	予定 12
	第3水曜日 13:30～14:30		いがまち保健 福祉センター 「愛の里」		21		16		17		19		21	
鳥ヶ原	第1木曜日 10:00～11:00	鳥ヶ原福祉センター 「清流」	3	1	5	3	7	4	2	6	4	※第2 木曜 8	5	5
	第2火曜日 10:00～11:00		グループホーム あやま		13		8		9		11		13	
大山田	第3水曜日 13:30～14:30	大山田保健センター	16		18		休		15		17		18	
	第2金曜日 10:00～11:00		青山福祉センター 教養娯楽室2				11		12		14		9	

■3B体操 講師：日本3B体操協会認定指導者

3B体操のベルや、ベルトを利用して、手を挙げて背筋を伸ばしたり、丸くなりがちな腰を伸ばしたり、膝痛予防に膝裏伸ばしをしたりと老化予防の体操を無理なくしています。

	月/時間	場所	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
上野	第4火曜日 13:30～14:30	伊賀市 総合福祉会館 活動室①②		27			※第5 火曜 29		※第5 火曜 30		25		27	24

■転倒予防教室 講師：三重県健康づくりの会 内海 奈美先生

人は歳を重ねると筋肉が弱くなり、転倒しやすくなります。また、転倒や認知症は生活習慣が大きく関わると言われています。予防体操と話を聞きながら、楽しく笑って学びましょう。

	月/時間	場所	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
上野	第4火曜日 13:30～14:30	伊賀市 総合福祉会館 活動室①②	22		24		26		28		23		24	

【お申し込み・お問い合わせ先・伊賀市社協 各地域センター 連絡先】

上野地域センター ☎0595-21-1112・FAX0595-21-8123 | 阿山地域センター ☎0595-43-1854・FAX0595-43-1577
 いがまち地域センター ☎0595-45-1012・FAX0595-45-1050 | 大山田地域センター ☎0595-47-0780・FAX0595-46-1165
 鳥ヶ原地域センター ☎0595-59-3132・FAX0595-59-3145 | 青山地域センター ☎0595-52-2999・FAX0595-52-3555

国土交通
大臣認定

交通空白地有償運送の資格取得にも有効です！

**「移動・送迎サービス運転協力者講習」
「セダン講習」受講者募集！！**

●定員27名（定員になり次第締切）
15名未満の場合は開催できない
場合があります。

日 時

令和7年5月10日（土）・11日（日）8:30～17:30

2日間受講必要

会 場

いがまち保健福祉センター「愛の里」（愛田513）

受講料
（資料代を含む）伊賀市・名張市在住在勤の方 12,000円
その他の方 15,000円申込・
問い合わせ先いが移動送迎連絡会事務局（伊賀市社協内）☎33-0064・FAX21-8123
※専用フォームまたは伊賀市社協ホームページから申込書をダウンロードし、FAXで送信するか、申込用紙を地域センターへ提出してください。

移動困難



▼申込フォーム



【広告】 三重県共同募金会 伊賀市共同募金委員会からのお知らせ

令和6年度

赤い羽根共同募金
歳末たすけあい募金
実績報告



令和6年度「赤い羽根共同募金運動」並びに、「歳末たすけあい募金運動」に、市民のみなさまのあたたかいご理解ご協力をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

ご協力いただいた募金は、一旦三重県共同募金会に集められ、社会福祉協議会をはじめ、福祉施設、ボランティア団体等に配分され、さまざまな福祉活動の財源として活用されます。

また、歳末たすけあい募金は、社会福祉協議会を通じて、令和6年度の年末年始の食事サービスや世代間交流事業、歳末見舞品等に活用させていただきました。誠にありがとうございました。

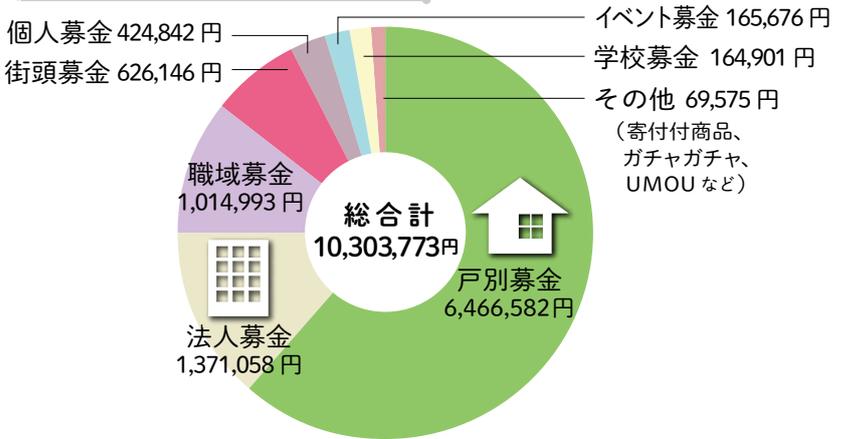
三重県共同募金会伊賀市共同募金委員会 会長 松井 謙二

令和6年度 募金実績

単位(円)

	赤い羽根共同募金	歳末たすけあい募金
市総計	10,303,773	6,531,881
上野	5,688,288	4,131,565
伊賀	814,629	604,665
島ヶ原	351,904	214,250
阿山	882,872	567,701
大山田	1,358,999	361,550
青山	749,675	652,150
本部	457,406	0

赤い羽根共同募金実績内訳



赤い羽根共同募金
バッジデザイン募金

三重県共同募金会では、赤い羽根共同募金運動への理解を深め、運動の普及拡大を図るため、三重県オリジナル募金バッジデザインを募集します。

※詳細はホームページを参照

【テーマ及び内容】

- ① 募集作品は1人3点まで未発表のもの
- ② 三重県をイメージしたデザインで、赤い羽根及び西暦を必ず入れる。使用できる色は、赤い羽根の赤色及び余白以外の白色を含め、5色以内。
- ③ バッジの寸ちは、縦横20ミリ以内。
- ④ 他者の知的所有権を侵害しているものは対象外。
- ⑤ 電子データで応募する場合、必ず余白に必要事項を記載する。

【入選作品】 バッジデザイン採用作品は1点3万円(高校生以下は図書カード)その他入選作品には賞あり。

【募集期間】 令和7年4月1日(火)～5月31日(土)まで(当日消印有効)

【応募資格】 三重県内に在住・在勤・在学の方

【応募方法】 郵送、持参またはメール

【審査結果】 審査会で審査し、令和7年7月1日(火)に本会HPに掲載

【問い合わせ先・送付先】

社会福祉法人三重県共同募金会
059・226・2605

広告募集中!

サポステはあなたの働きたい気持ちに寄り添う場所

※就職相談・各種講座※
利用無料・要予約

レッツ サポステ

はじめの1歩

どんなことでもお気軽に
ご相談ください

出張相談(ハローワーク伊賀)
4月15日 火
13:00~16:00

15~49歳までの「仕事に就きたい人とその家族」を応援!

サポステ ☎0595-22-0039

伊賀市上野丸之内500 ハイピア伊賀3階
いが若者サポートステーション 開所日/月~金 9:00~17:00 (土・日・祝・年末年始休)

ご不要車買取ります。

年式の古い車
乗らなくなった車

愛車の買取なら地元企業の
亀井商事

出張買取
査定費用 0円
引取手続料 0円

株式会社 亀井商事
Joy-Auto Service
ジョイオートサービス 青山店
伊賀市青山羽根381-27

買取受付ダイヤル
0595-62-3131

数字で見る伊賀市の福祉

令和7年1月末現在(前月比)

伊賀市の人口	▶ 84,451人(-114人)		
伊賀市の世帯数	▶ 40,505世帯(-11世帯)		
65歳以上高齢者数	▶ 28,827人(-18人)	高齢化率	▶ 34.1%(±0%)
75歳以上高齢者数	▶ 16,790人(+25人)	後期高齢化率	▶ 19.9%(+0.1%)
介護保険認定者数	▶ 6,182人(-47人)		

あなたのまちの
ふれあい・いきいきサロン

No.215



高瀬えびす会

メンバー数/14人
開催場所/高瀬公民館
開催頻度/月1回

高瀬えびす会は、立ち上げて20年以上活動を続けているサロンになります。サロン立ち上げのきっかけは、自宅で1人寂しそうにしている方が、みんなで集まって楽しくコミュニケーションを取ることができる場があったらいいなと思ったことでした。

活動内容は月により様々ですが、3B体操やレクリエーション、ウォーキングなど楽しく体を動かせるメニューが盛りだくさんです。2月の活動では、昭和歌謡の弾き語りをされている方を招き、懐かしいメロディーに皆さん耳を傾けていました。

1つの場所に集まって和気あいあいと楽しく過ごすことはもちろん、“みんなで昼食を作って食べる”ことも活動のモットーにしており、自然と会話が生まれる場の提供をしています。「月1回集まれる場所があって良い」「世間話ができる」など参加者にとっても大切な居場所になっています。代表の北野さんは、「参加者とボランティアを分けることなく、支え合いながらできるところまでサロンを継続していきたい」と今後の抱負を話してくださいました。

我ら！ふくし
レンジャー

No.224



つじ よしつぐ
辻 喜嗣さん(上野在住)

●活動を始めたきっかけ

小学校教員時代は、子どもたちとさまざまな学びの場を共有しました。もともと好奇心旺盛で、誘われたら断れない性格も相まって、幅広いジャンルの地域活動に関わるようになりました。比自岐小学校在職中、環境保全活動の一環として児童とともに空き缶を集め、障がい者作業所へ届けたことがきっかけで、現在は社会福祉法人の理事も務めています。

●活動内容

今は、「地名研究」と「依那古語り部の会」が活動の中心です。地名研究は、「手伝って」と誘われたのがきっかけで参加し、昨年書籍を刊行するまでになりました。語り部は、祭りや宗教行事の継承が難しくなってきた今だからこそ、由来や歴史などを含め人の記憶に残していくことはとても意義深いですし、人と出会える楽しい活動です。地元のサロンから「昔話をして」とお声かけもいただきました。

●今後の抱負

時代の移り変わりもありますが、同じ地域に暮らす人同士は、顔を知っていて気かけ合えるあたたかい地域でいてほしいなと思っています。これからも自分自身、楽しんで活動が続けていきたいと思ひます。

福祉は、「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにすることとも言われています。福祉の理念や知識を学び、支え合う社会のあり方を考える「福祉教育」を通じて、ふだんのくらしがより温かく、支え合いのある幸せなものとなり、住みよい社会の実現につながります。

編集後記

編集・発行 伊賀市社会福祉協議会

本部	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)5866 / FAX0595(26)0002
上野	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)1112 / FAX0595(21)8123
いがまち	〒518-1413 愛田 513番地 いがまち保健福祉センター「愛の里」 ☎0595(45)1012 / FAX0595(45)1050
島ヶ原	〒519-1711 島ヶ原 4743番地 島ヶ原福祉センター「清流」 ☎0595(59)3132 / FAX0595(59)3145
阿山	〒518-1313 馬場 1128番地の1 阿山保健福祉センター ☎0595(43)1854 / FAX0595(43)1577
大山田	〒518-1422 平田 656番地の1 大山田福祉センター ☎0595(47)0780 / FAX0595(46)1165
青山	〒518-0226 阿保 1988の1番地 青山福祉センター ☎0595(52)2999 / FAX0595(52)3555